

取扱説明書

《膨張式》
作業用救命衣

小型船舶用救命胴衣の要件に適合するもの(膨張式)

マリンベスト

KK-11

国土交通省型式承認番号 第4469号

作成2015.9

分類的種類
TYPE A

ご使用前にこの説明書をよくお読みのうえ正しくご使用下さい。
尚、本製品は繰り返し使用できますので、この説明書を、大切に保管して下さい。
本製品の使用方法および再使用手順は、3ページから8ページに記載してあります。

製造販売
(国土交通省認定製造事業場)
興亜化工株式会社

■安全に関する注意事項

作業用救命衣（小型船舶用救命胴衣の要件に適合するもの〔膨張式〕）KK－11（以下「救命衣」という。）を正しくお使いいただく為にこの注意事項をお守り下さい。

危険 取扱いを誤った場合、使用者が〔死亡又は重症を負う危険が切迫して生じることが想定される〕内容です。

- 1.気室に、裂け、切れ傷及び漏れ等の損傷がある場合は、絶対に使用しないで下さい。
- 2.ポーチの中に物(たばこ、手袋など)を入れないで下さい。救命衣が膨張しない原因や安全な着用を妨げる原因になります。
- 3.救命衣を手動膨張又は自動膨張にて使用した場合は、ガスボンベ及びスプールを新品と交換して下さい。ガスボンベを新品と交換しなければ気室を膨らませるガスは出てきません。
- 4.ガスボンベの使用確認窓に少しでも赤い部分が見えるときは、使用できません。ガスボンベを交換して下さい。
- 5.巻上げキャップのスプール確認窓に少しでも赤い部分が見えるときは、スプールを純正部品の新しいものと交換して下さい。
- 6.スプールの有効期間は1年です。スプールは、経年変化によって水没してから膨張装置が作動して自動膨張するまでの時間が長くなる傾向にあります。期間経過後は純正部品と交換して下さい。
- 7.泳げない人は使用を避けて下さい。
- 8.必ず、この取扱説明書に従って正しく使用して下さい。

警告 取扱いを誤った場合、使用者が〔死亡又は重症を負う可能性が想定される〕内容です。

- 1.落したり、ぶつかけたりしないで下さい。強い衝撃が加わると膨張装置が破損して使用できなくなります。誤って落したり、ぶつかけたりした場合は、必ず膨張装置を点検して下さい。
(7～8ページ保守・点検の項を参照)
- 2.強い衝撃を与えたり、鋭利な刃物や突起物に触れさせないで下さい。強い衝撃を与えたり鋭利な刃物や突起物に触れた場合は、救命衣に補助送気管から空気を吹き込み、救命衣気室を膨張させて12時間以上放置した後、漏れが無いかが調べて下さい。その後、補助送気管より完全に中の空気を抜き、キャップをして下さい。
- 3.突起物、鋭利な物(ブローチ、ボールペン、ネクタイピンなど)は救命衣着用前に取り外して下さい。
- 4.救命衣は衣服等の上から正しく着用して下さい。正しく着用できない場合は使用しないで下さい。
- 5.救命衣の取扱い時は火気厳禁にして下さい。
- 6.ガスボンベ及びスプールは、純正部品以外のものを使用しないで下さい。正常に膨張しない原因になります。
- 7.気室が膨らんだ状態の救命衣では、ガスボンベを使った作動・膨張をさせないで下さい。膨張しすぎとなり救命衣を破裂させる原因になります。
- 8.船上等で水をかけないで下さい。救命衣が膨張する場合があります。

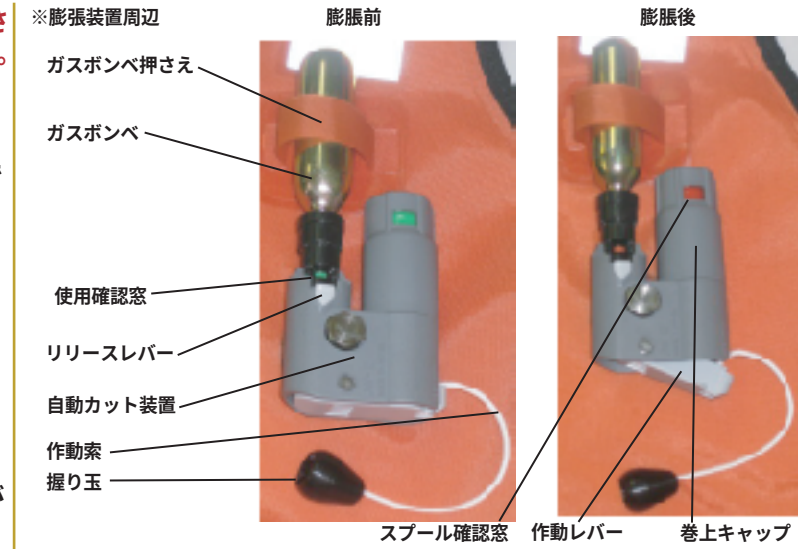
注意 取扱いを誤った場合、使用者が〔傷害を負う可能性が想定される場合及び物的損害のみの発生が想定される〕内容です。

- 1.使用前には必ず自主点検をして下さい。
(7～8ページ保守・点検の項を参照)
- 2.この救命衣は救命用ですので、他の用途に使用しないで下さい。
- 3.この救命衣は、自動膨張式となっていますが、この機能はあくまで補助的なものです。着水後は、作動索を引いて救命衣を膨張させて下さい。
- 4.救命衣を膨張させた状態で飛び込む場合は、両手で救命衣を抱きかかえるように、しっかりと固定し飛び込むようにして下さい。
(高さ3mでの試験実施)
- 5.水面に浮遊しているときは、救命衣を破裂させる恐れのある浮遊物に注意して下さい。
- 6.救命衣を着用し、雨や波などで濡れた場合は、十分に乾燥させてから保管して下さい。
- 7.救命衣の上に重いものを載せないで下さい。
- 8.使用しない場合、炎天下、車のトランクの中など、高温及び湿気が多い環境下では保管しないで下さい。ガスボンベを破裂させたり、膨張装置を誤作動させる原因になります。
- 9.幼児の手が届かないところに保管して下さい。怪我などの原因になります。
- 10.膨張装置は、精密な構造ですので分解しないで下さい。膨張装置を誤作動させる原因になります。

■製品仕様

作業用救命衣	首掛け式 気室(オレンジ色、ナイロン・ポリウレタンコーティング布) 膨張装置、補助送気管、ベルト、ポーチ 再帰反射材貼付、笛付 縦約54cm、幅約36cm(膨張時) 浮力：約10kg
膨 張 装 置	自動カット装置(手動膨張兼用)：1個 ガスボンベ(液化炭酸ガス 17g)：1個 スプール(内装)：1個
ポ ー チ	寸法：約250mm×約110mm×約50mm 質量：約130g
質 量	約570g(作業用救命衣本体部分：約440g)

■各部の名称



■概 要

本製品KK－11は、船舶設備規程第311条の20（作業用救命衣）、同条の21及び小型船舶安全規則第53条（小型船舶用救命胴衣）並びに小型漁船安全規則第25条（救命設備の要件）の2に適合するものです。
本製品KK－11は、舷外作業（船員安全衛生規則第52条）及び漁労作業（同規則第57条）等で規定された作業用救命衣として、海中転落の恐れのある作業時に常時着用し易く、軽量でコンパクトにして作業性を良くした設計で製作されております。更に、小型船舶並びに小型漁船に乗船時に、常時着用型の安全な小型船舶用の救命胴衣としてもご使用頂けるように、兼用タイプとなっております。

■使用方法

救命衣を着用する際は以下の点をチェックし、問題があれば使用を中止し、必ず7～8ページの保守・点検に従って点検を行って下さい。
1、ポーチにキズや穴がないこと。
2、ベルトにキズやホツレがないこと。
3、バックルに割れ、欠けが無く、はめ合いがスムーズであること。
4、ポーチを開き、膨張装置の確認窓2か所が緑の表示になっていること。

- 1.KK－11の装着
救命衣のポーチを腰部前面に装着します。(図-1)

＊ポーチに付いているベルトを腰部に回し、ベルトの左右のバックル(留め具)を差し込み、ベルトの長さを調整してしっかりと装着して下さい。

装着が十分でないとポーチが水中で外れてしまう原因になります。



■図-1

- 2.KK－11の手動膨張
救命衣は、ポーチ右側に出ている作動索の握り玉を強く横に引っ張ることで膨張装置が作動し、ガスボンベ内の炭酸ガスが気室を膨張させ、気室はポーチから前面(体の前)に出てきます。気室の上部に「表側」・「体側」の標示がしてあります。「体側」を身体側にして装着して下さい。

- 3.KK－11の自動膨張
救命衣は手動膨張のほかに、水中に全没し、スプールが水を感じることによって膨張装置が自動的に作動します。気室がポーチから出て水面上の前面(顔の前)に出てきます。(図-2)



■図-2

＊ポーチを腰部側面等に付けていた場合は、水中でポーチを掴んで、前面に回して下さい。

＊＊自動膨張が少しでも遅いと思われた際には、作動索(握り玉)を強く横に引っ張って下さい。

- 4.気室を首に掛ける
水面上で前面(顔の前)に出た気室の両側を掴んで、気室の首部内側(「体側」)を首に掛けて下さい。(気室首部内側に頭を通す) - (図-3、図-4)



■図-3



■図-4

- 5.適正な浮遊姿勢
気室、ベルト及びベルト連結紐との組合せで、適正な浮遊姿勢が保てます。(図-5)



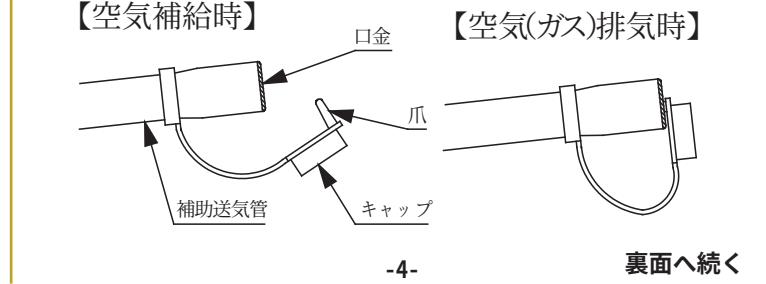
■図-5

〔水上へ避難する場合の膨張〕
緊急でない場合は、ポーチから気室を取り出し、「体側」を身体側にして首に掛け、膨張装置に付いている作動索を下方に強く引っ張ると、膨張装置が作動して、気室が膨張します。
気室が膨張した後、ベルトを腰部に回してバックルの両端を差し込み、ベルトの長さを調整してしっかりと装着して下さい。

■補助送気管(装置)

この装置は、気室に空気を補給する時又は気室の空気(ガス)を排気するときに使用する装置です。

- a.空気補給時:キャップを外して、補助送気管の口金(樹脂製)から補給します。補給後はキャップをして下さい。
- b.空気(ガス)排気時:キャップを外して、キャップの先の爪を補助送気管の口金(樹脂製)に押込んだ状態で救命衣を手などで圧迫し排気します。排気後はキャップをして下さい。



■膨張使用後の再生

膨張使用後の救命衣は以下の再生手順に従い、専用の再生キットを組みつけることで、新品と同等の性能が得られます。

1. 救命衣を膨張使用した後は、一度気室内の炭酸ガスを抜きます。使用後の整備点検として気室に補助送気管から口で息を吹き込み気室をパンパンに膨張させ、キズやほつれなどの異常が無いことを確認しながら、シャワーなどで気室、ポーチ、ベルトをよく水洗いします。膨張させてから12時間後に圧力が抜けていなければ再生使用ができます。(漏えい試験合格) 気室からガスを抜いて下さい。

2. 次の要領でガスボンベとスプールを取り外し廃棄して下さい。

＜ガスボンベとスプールの取り外し方法＞

- a. 使用済みのガスボンベを①リリースレバーをスライドさせながら②左に90°回して外して下さい。



- b. 膨張装置の巻上キャップを左に回して外して下さい。巻上キャップには突起(ストッパー)がありますので注意して作業して下さい。自動カット装置を逆さにして使用済みのスプールを取り出して下さい。



3. 気室、ポーチ、ベルト及び取り外した巻上キャップを日陰で良く乾かして下さい。

4. 専用の再生キットを用意し、その内容を確認して下さい。(使用確認窓が緑色のガスボンベ、未使用のスプール、取扱説明書)

5. 作動レバーが下がっている時は、上に押し上げてロックがかかる位置まで戻して下さい。



6. 気室内の空気(ガス)を補助送気管を使って十分に抜き、キャップをして下さい。

7. 次の要領で新しいスプールとガスボンベ(CO2:17g)を取り付けて下さい。

＜スプールとガスボンベの取り付け方法＞

- a. 膨張装置及び巻上キャップの内部に水滴等の付着がないことを確認して下さい。

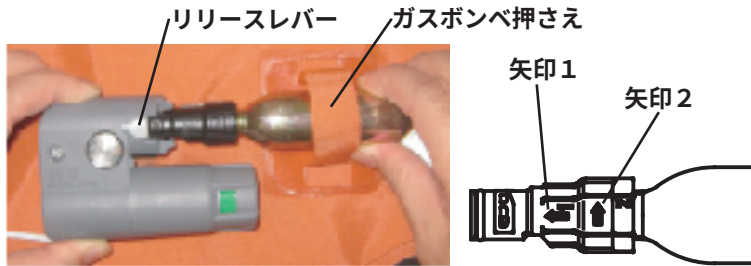
- b. 新しいスプールを、膨張装置のガイド溝に合わせて挿入して下さい。



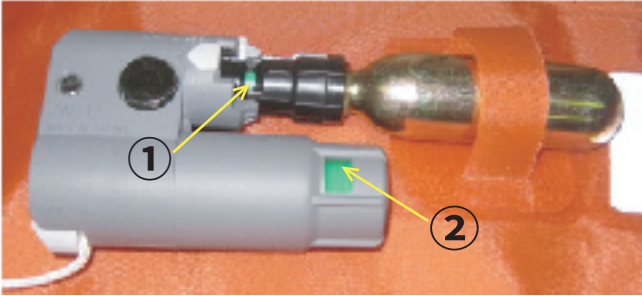
- c. 巻上キャップを右に回して巻上キャップの突起(ストッパー)が当たるまで締めて下さい。この時、①の表示窓がすべて緑になります。赤が見える場合は、スプールの異常が疑われますので使用しないで下さい。巻上キャップが回り切っていない場合は②に赤が見えます。



- d. 新しいガスボンベをガスボンベ押さえをくぐらせて取り付けます。ガスボンベのプラスチックに記された矢印1をリリースレバーに向け、矢印1の方向に押し込みながら矢印2の方向に回して、ロックをかけて下さい。



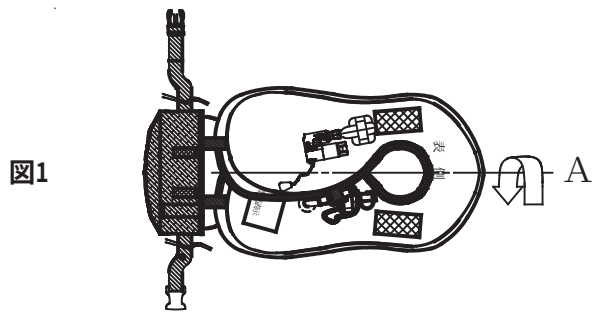
- e. ①②の窓がすべて緑であればガスボンベとスプールの交換は正しく行われています。ガスボンベの使用確認窓①に赤が見える場合は、ガスボンベの異常が疑われますので使用しないで下さい。



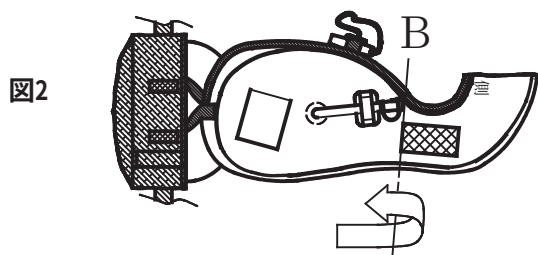
8. 気室を畳み、ポーチにセットします。(6～7ページのポーチへの収納方法の項を参照)

■ポーチへの収納方法

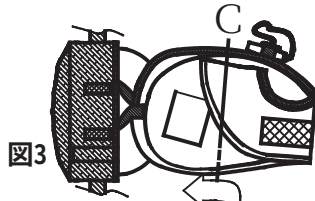
1. ベルト連結紐にねじれ、からみなどが無い状態とし、ポーチと気室を広げます。(図1)



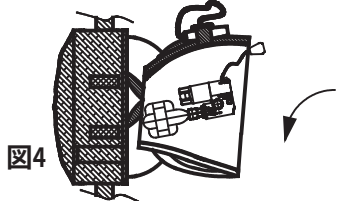
2. 膨張装置側を補助送気管側の下側に折込み(図1-A)、重なりがずれないようにします。(図2)



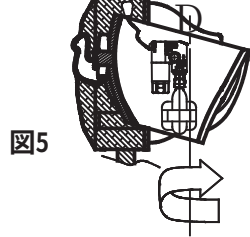
3. 補助送気管の筒口上部(図2-B)を折り点とし、気室の上部を内側に折ります。(図3)



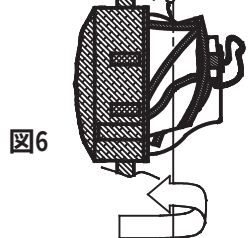
4. 補助送気管の取付端部(図3-C)を折り点とし、その上部を内側に折ります。(図4)



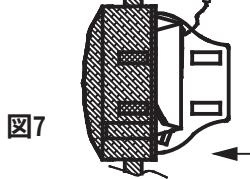
5. 折り畳んだ状態のまま、気室を左側に90度回転させる。連結ベルトを伸ばすように一番下に畳まれている気室を斜めに折り返す。(図5)



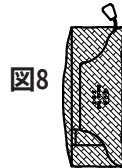
6. 膨張装置のボンベの上(図5-D)を折り線とし、膨張装置のボンベが下側に、作動索が上側になるように折り返し、ポーチに入れる。



7. ポーチから飛び出ている笛の付いた側の気室を膨張装置を隠さないように外側に折り込む。(図7)



8. ポーチの蓋に縫い付けたマジックテープをポーチ本体のマジックテープに合わせて止める。膨張装置の作動索の握り玉を外に出す。(図8)



■保守・点検

救命衣が何時も完全な作動をするために、6ヶ月毎に次の保守・点検を実施して下さい。点検により異常等がある場合は、各項目の指示に従い販売店又は弊社(興亜化工株)に整備(点検・部品交換)、購入(製品・部品)を依頼して下さい。

1. 気室の点検
裂け、切れ傷、こすれ、漏れ、損傷及び変質等の有無を点検して下さい。異常がある場合は製品購入を依頼して下さい。

2. 膨張装置の点検
亀裂、破損などの異常の有無を点検して下さい。異常がある場合は整備又は製品購入を依頼して下さい。

3. スプールの点検
巻上キャップを外してスプールの有効期間を点検して下さい。スプールの側面に製造年月が刻印されていますので1年が経過していないか点検して下さい。期間経過後は、純正部品の新しいスプール(JW-12用スプール)を購入し、交換して下さい。有効なスプールをセットして巻上キャップをストッパーが当たるまで締めて下さい。この時、キャップの表示窓がすべて緑色でない場合は、キャップが締めきっていないか、装着したスプールに異常がありますので再度点検して下さい。

4. ガスボンベの点検
ガスボンベの使用確認窓がすべて緑色でない場合や、ガスボンベ本体に腐食、さびが進行した場合は新しい純正部品(JW-12用ガスボンベ)を購入し、交換して下さい。

5. 補助送気管の点検
補助送気管に亀裂、裂け及び変質等が無い、また、キャップの有無を点検して下さい。亀裂等の異常がある場合は整備又は製品購入を依頼して下さい。

6. ベルトとベルト連結紐の点検
ベルトとベルト連結紐の損傷、切れ等とミシン糸の切れ、ホツレ及びバックルの損傷の有無を点検して下さい。損傷等がある場合は整備又は製品購入を依頼して下さい。

7. ポーチの点検
ポーチの裂け、ミシン糸の切れ、ホツレ及びマジックテープの損傷の有無を点検して下さい。損傷等がある場合は、整備又は部品購入を依頼して下さい。

8. 笛の点検
笛の有無と音が出るかを点検して下さい。笛が無い場合又は音が出ない場合は部品購入を依頼して下さい。

9. 再帰反射材の点検
再帰反射材の有無及び剥がれ、汚れ、損傷等を点検して下さい。再帰反射材が取れた場合、剥がれ、汚れなどがある場合又は無い場合は整備又は製品購入を依頼して下さい。

整備記録・メモ

製造販売
(国土交通省認定製造事業場)
興亜化工株式会社
ホームページ; <http://www.koa-kako.co.jp>
E-Mailアドレス; sales@koa-kako.co.jp
〒103-0004 東京都中央区東日本橋2-13-9
TEL(03)5835-2924 FAX(03)5835-1041